



createc

z

i



n

c

2012 秋号 : : 目次

2-3 -- 今月の余白工事人

今月の余白工事人は、大阪の支部長となった七墓プロジェクトただえりさん。そして、名古屋の加藤さん。

4 -- 10 --- イベントレポート

9月は余白ネットワークは、関西ゲストを招いてのイベントや、学会で紹介されるなどイベント関連のニュースがたくさんありました。。それぞれについて、余白工事人たちがレポートでお伝えします。

5-6 質的心理学会 石幡愛レポート

7 余白ネットワーク × ゲストフロム関西レポート

文化人類学カフェ@アキハバラ 小林橘花レポート

ぐるっこカフェ 内田聖良レポート

8-10 月イチ関西人の日 内田壮哉レポート

3-5 --- ぐるっこにつどったこえ (by 冠那菜奈)

今月のぐるっこのいえに集った人たちへインタビュー！

7 --- 今月の内田聖良のIT語辞典

2009年からはんだごてを握り始めたIT初心者、内田聖良によるちょっと変わったIT語辞典。

6 -- 地に足ははじめからついてない。 (by 小林橘花)

人生の進路をどうとっていくか、そしてどうやって進んでいくか。安定という幻の地をさがすのではなく、どうやって飛び、どうやって操縦したらいいのか、を考えるとこです。

9 -- 10~月のイベントカレンダー

今月の余白工事人

今月は、関東以外に新しく余白工事人となってくれた大阪のただえりさん、名古屋の加藤さんお二方の紹介です。ただえり支部長による余白ネットワーク大阪支部が発足！クリエイイト人関西圏の印刷所などの活動から始めます。



みな様こんにちは!!

余白ネットワーク大阪支部

が"できました☆☆

タダ"が担当します!!

よろしくお願ひします。

大阪では「ファイヤー!粘土団子爆団!!!」

など"を行っています。

↑
粘土団子"という、土と植物や野菜等の種を混ぜたものを泥団子にしたものをばらまく"という、自然農法の手法です。ど"にまくかはあなた次第!!

都市型自給生活

目指しております!!

手始めにベランダで"きゅうり、トマト、なすび"を育てましたが、きゅうりは下の階のベランダ"にからまっています。

そんなこんなで"谷町空庭"さんの屋上で"火畑"をさせていた"空庭畑部"!!!

オープニングパーティー
11/9(金)20時~
なべ"農材を何か持"てま"い

他にも

これから雑草の活用方法や、その他いろいろ自給的に生きていく方法等研究していきます。どうぞよろしくお願ひします。

さらに、名古屋の加藤正浩さん のご紹介です。
加藤さんは、「【余白ネットワーク ~〇〇をDiYする! ~】に寄せて」を執筆
してくださいました! 次号に掲載予定です!!!!

ぜひ、楽しみにしててください~!

加藤 正浩 プロフィール

2005年 名古屋大学 情報文化学部 自然情報学科 卒業
2007年 東京大学大学院 学際情報学府 学際情報学府専攻 修士課程 修了
現在 某会社員 システムエンジニア

2012年より 長者町まちなかアート発展計画 メンバーに参画
<http://cmahpj.jimdo.com/>

学部卒業以降、ふと「何か」と「何か」をつなぐものとは?という不思議な問題に興味を持つ。
当初、それは進化論だ!と思い大学院に行ってみるも、色々あり挫折。

しかし、他の専攻で活発に研究されていたメディアアートを眺めていて、タコツボとなりつつある
各学問分野が、アートとして表現されることでつながっているように見え、初めてアートに興味を持つ。

その後、メディアアートを興味の基軸としながらも、対象をアート全般に広げ、各地を巡っている。

次号に

「【余白ネットワーク~〇〇をDiYする!~】に寄せて」 (加藤正浩)

掲載予定!!

質的心理学会 レポート

余白ネットワークが、質的心理学会で紹介されました。話題提供者として、ぐるっ娘の石幡愛さんとぐるっ娘で余白ネットワークのメンバー冠那菜奈が出席しました。話題提供者の石幡愛さんから、指定討論者からのコメントに答えて、という形で文章をいただきました。

+++++

質的心理学会第9回大会報告 【指定討論者からのコメントに答えて】

石幡愛



+++++

質的心理学会第9回大会 (@東京都市大学) で、『「つくること」としてのつながり』というシンポジウムに登壇し、「秋葉原ネットワーク」と「余白ネットワーク」について発表してきました。指定討論者の松嶋先生から重要なコメントをいただいたので、それにお答えする形で、ご報告としたいと思います。

コメント①



「否定的共同体」について。「否定」と言うからには否定する対象を強く意識している。この点は「対抗文化ではない」という墨東大学（同シンポジウムで岡部先生から話題提供がありました）との違いなのか。

答え①

余白ネットワークがつくっているつながり（という用語があり、より正確には、すでに存在しているつながり方を可視化している、と言ったほうがよいと思いますが）を理解する道具として、モーリス・ブランショの negative community という用語を引用しました。この用語に対しては「否定的共同体」という訳語が定訳ですが、発表でも述べたとおり、これはミスリーディングだと思います。ブランショが述べる場所の negative community とは、共通性を成立要件とするコミュニティ観を「ポジ」とした場合、その「ネガ」であるようなコミュニティ観のことです（写真の「ネガ」を思い浮かべてみてください）。

したがって、ここで「否定的共同体」という用語で指し示したものは、ある共同体に対抗する／を否定する共同体ではなく、つまり対抗文化ではなく、人々が互いに異なるからこそ、共に在るという状況が成立するというそのものです。

余白ネットワークの問題意識は、価値観や尺度や選択肢がひとつに集約されること、あるいは、それしかない信じ込むことへの危惧や疑問にあります。そして、余白ネットワークの活動は、人々が互いに異なっているというすでにある事実を、より見えやすくする仕掛けを設定することであり、また、異なる者が共に在るための様々なエクササイズであると思います。

「余白」という言葉からして、枠に寄生してなんとかやっていくやり方（セルトーの言う「戦術」）であって、枠を転覆させようという意図はないのです。「枠は枠としてあるけれど、余白も（しかもいろんな余白が）あってもいいじゃない」と。そんな感じです。

コメント②

コミュニケーションが成立していると思っていても実はディスコミュニケーション、ということが日常的にも起きているのではなか。か。

答え②

community に対して上記のようなスタンスを取るのと同様に、communication に対しても、差異やズレに着目するスタンスを取っています。そうすると、ディスコミュニケーション（伝わらない、勘違いされる、無視される、矛盾する…）は常に起きていて、それもまた、コミュニケーションの一要素なのでなか。かと思われる。

バフチンやワチを引用するのが、わかりやすいかと思います。つまり、他者の言葉に自己の志向とアクセントを住まわせること（専有。この概念は、先ほどのセルトーの「戦術」とも近い概念です）。それをお互いにやり続けることがコミュニケーションだというわけです。ちなみに、先ほどからよく使っている「共在（共に在る）」という用語は、文化人類学者・木村大治さんの「共在感覚」から取っています。木村さんの研究では、アフリカの原住民の会話の仕方に関するフィールドワークから、コミュニケーション観そのものを刷新しています。「共在感覚」は、上記のようなコミュニケーション観に通じるものがあると思います。

コメント③

こういった活動を継続するためには何が必要か。



答え③

「継続するために」の前に、「継続すると何が起きるか」を考えてみたいと思います。実際、2年目を迎えた余白ネットワークでもそうですが、自分たちが何を大切にしているのかを言語化できるようになるのと並行して、その大切なものが、ある意味優位な価値観として、目立ってくる気がします。そして、その価値観に沿うようなアクションを起こす人や事例が「面白い人」「優れた事例」になるわけです。例えば、発表でご紹介した、誰にも頼まれていないのに個人的な熱意で、ものすごくクオリティの高い全国のメイド喫茶のリストを作った人物、カレーを50人前作った人物、こういった人たちは、余白ネットワークにおける「エリート」とも言えます。



たいてい、価値観や尺度や選択肢が固まってきて、そこに人々が（強制的にせよ自発的にせよ）動員されることによって、継続性というものは得られるのだと思います。一方で、余白ネットワークの活動を継続するという事は、価値観や尺度や選択肢を解体し、再構築し続けることなので、ある意味矛盾を抱えていると思います。

そこでヒントになるのが、フロアからのコメントにあった「個に帰る」「山が砂粒に戻る」ことです。ネットワーク（既存の組織や固定的なネットワークによる協働ではなく、それらの境界を越えた即興的な協働。これを、結び目（ノット）をつくるという行為をメタファーとして表現した、エングストロームの用語）という概念ですら、「結ぶこと」のほうに重きが置かれて議論されているくらいがある。その中で「ほどくこと」の意味を考えてみるべきでしょう。

余白ネットワーク×ゲストフロム関西 イベントレポート

9月第二週目に行われた 2012年9月7日 文化人類学カフェ@アキハバラ + 余白散歩
関西ゲストを招いての 9月8日 ぐるっこカフェ
ふたつのイベントレポートです。 with大阪七墓巡り復活プロジェクト 陸奥賢

文化人類学カフェ@アキハバラ + 余白散歩 レポート

2012ねん9がつ7にち、まいづるRBの豊平豪さんをお招きして文化人類学カフェを行いました。テーマは「ロボットと恋はできるか」！！余白ネットワーク至上最もキャッチーと話題になりました。(わたしたちのなかで…)

文化人類学カフェは、文化人類学を専門としている豊平さんが進行役となり、身の回りの気になる事柄を「人類学的に」話してみることで新たな考え方に会おうとするもので、舞鶴の老人ホームなどで開催されています。今回は、文化人類学カフェの前に余白散歩を行い、秋葉原の街から感じたことも交えつつお話ししました。当日は、まいづるつながりのお客さん(まいづるRBにいたことがある人)が余白ネットワークのサイトをみて、来てくれました。

ロボット、というか、人ではないもの。ゴリラに恋する子、なんていう話も出ました。AAF事務局の長谷さんも来てくれました！

キャラ化とか二次元との恋とか。人形との恋だとか。

メイドカフェデータブックをつくるほどのメイドカフェ好きのたかおさんも来てくれました。「昔見た関節球体人形を買わなかったのを後悔しているが、買ったら人生終わってたかもしれない」という話をしてくださいました。

せいらは「秋葉原にいる女の子たちはアニメの絵みたいになりたげにみえる」と話していました。

話し手の表情ができるテレノイドというロボットの話も出ました。

はじめから、「着地点はありません」とおっしゃっていたとおり、あっちこっちに飛びつつ、それぞれがお互いの話を聞きながら、「人でないもの」と「恋をすること」について考える時間となりました。

人間に恋しないとどうなる？

(小林橋花)



ぐるっこカフェ ワークショップ&トーク 「聖地と悪所/小さな聖地」 レポート

9月8日(土) 19:00~22:00に、大阪七墓巡りプロジェクトの陸奥賢さんをお迎えし、「ぐるっこカフェ ワークショップ&トーク 「聖地と悪所/小さな聖地」」を開催しました。

初めての試みでしたが、普段話だけでは見ることのできないものをたくさん感じることでできたイベントでした。

ワークショップでは、それぞれが「聖地」っぽいと思うものを、携帯カメラなどで写真に収めていきます。角度や構図などもそれっぽいものにこだわったりします。最終的に、最も「聖地」っぽさが出ていると思う数枚をそれぞれが提出し、一枚ずつ鑑賞し合います。家の中では狭いかとおもいきや、意外と聖地とつながる何かを発見できます。敷居に聖地を感じる人、武装のための場所を聖地と感じる人、自分を防護するものを聖地とつなげる人などさまざま。それをひとりひとり解説しながら鑑賞していきました。

「聖地」とは多くの人の心の拠り所となっているものですが、それぞれの人がどのようなところに「拠り所」を持っているのか、どこに、聖地らしい、「美しさ」を感じ取っているのか、なかなかみることでできないその「小さな」聖地を、写真とそれを説明する人の言葉から、垣間見ることができたと感じます。

また、悪所と文化やお墓のつながりや、無縁の人をお参りする慣習の話聞き、無縁の人たちとのつながりやその方法について考えをめぐらしたりしました。むつさんの今後のプロジェクトもどんなものになるのか楽しみです。

(内田聖良)



第一回『月イチ関西人の日』（仮）レポート

内田壮哉さんと岡田千絵さんによる初企画、月イチ関西人の日のレポートです。（筆：内田壮哉）

開催日時：2012年9月22日 19-22時（結局23時まで延長）

場所：ぐるっこのいえ

参加者：冠、武長、土屋、松木（計4名）

主催：内田壮哉、岡田千絵

●概要

参加者対象：

- ・ 関東在住の関西出身の方
- ・ 関西出身の方が東京のとある部屋に集まってなにかする、ということに興味を持たれた方
- ・ たまたま近くに来られた方

なにすんの？：

- ・ お好み焼き食べましょ。
- ・ 改めて地元のこと知りたいです。
- ・ 思う存分関西弁でしゃべって下さい。
- ・ いま大阪はなにが起きているのか教えて下さい。

参加費：

500円（食費）

※お好み焼きに入れたい具材1品持ってきてくれた方は300円！

●背景

「西の方ですか？」

正確には思い出せないけど、ある歌会の後、北池袋の中華料理店でそんな風に声を掛けられました。

「私、こっちきてまだひと月なんです。けどもうホームシックで……」

そんな風な言葉が続いたことと、浮かない表情とを覚えています。

翌週、ぐるっこのいえの住人である冠さんと電話で話していた際、気になる話を聞きました。それは前日、偶然ぐるっこのいえに関西からのお客さんが来て、ぐるっこのいえの新たな住人である岡田さんと一緒に盛り上がったという内容でした。この岡田さんという方は、人生のこれまでをずっと大阪で過ごしてきたという大阪大好きな大阪人です。

「……なんか、出来そう。」

自分の中で2つが1つに繋がる気がしました。その電話でのやり取りの間に、1つの提案をしてみました。

「関西出身の人が東京で集まる日ってのがあっても面白いかもね。」

たったその程度の提案。それでも、冠さんに加え、岡田さんも後押しして下さったので、思い切ってやってみようということになりました。

●当日の様子

19:00

食材を抱え、ぐるっこに到着。

ぐるっこには岡田さん。私が着く少し前に帰宅したとのこと。

参加者はまだ居らず……

19:30

武長さんがいらっしやっった。武長さんとはこのときが初対面。にも拘らず、その後すぐ買い出しと下拵えを手伝ってもらいました。(参加型イベント、ということで)

男二人で買い出し。追加で買ってくるものリストを手に、ちゃんと2店舗の値段を見比べながら買い物しました。

20:00

武長さんと内田が買い出しから帰宅。

そして、岡田さんが焼いてくれたお好み焼き第一弾が完成!

第一弾はシンプルにキャベツのみ。

3人で試食。

……

武長・内田「うん。これだけでも結構いけるね!」

内田「ただ、ちょっと粉っぽいな」

岡田「んーそやなあ」

武長「??。分からない。」

粉に対する感度の違い、なんてのがあるんだろうか。

20:30

土屋さん、松木さんがいらっしやっった。

ここで追加食材の投入。

○本日の追加食材

- ・明太子
- ・ツナ
- ・チーズ
- ・もち
- ・シーフードミックス
- ・のり

○好評だった組み合わせ

- ・明太子+チーズ
- ・シーフードミックス+のり

○ワンポイントアドバイス

「お好み焼きを作る際は、生地に擦った山芋を入れると焼いたときにふっくらします。」(岡田)

ビールや酎ハイ、松木さんから頂いた日本酒もあり、ワイワイ!

ここからお好み焼きを切り口に大阪・関西の話。

まずは食文化。今回来て下さったお客さんは皆さん東の生まれ。聞くところによれば、東京ではお好み焼きの具材としてコーンは一般的なのだそうですね。

岡田・内田「えっ!」

知りませんでした。これ、関西では、少なくとも大阪では余り使われない具材です。もしかしたら大阪でも家では入れているところもあるんだろうか?

また、数の数え歌というのか、これもまた大阪では独特のリズムがあることを知りました。しかも、大阪市と堺市で少し違う可能性が浮上。サンプル求む。

次はやっぱり観光地。

「大阪は行きたいけど、どこに行ったらいいのかわからない」という声により、岡田さんの大阪愛に火が灯る。

話の中には私の全然行ったことのない場所ばかりだったので、「へえ〜!？」と感心しながらお客さんと一緒にメモメモ！

今回、岡田さんの話に出て来た場所は……

○観光地

- ・通天閣（押さえておいて損無し！ピリケンさんに会いに来て下さい。）
- ・清水寺（実は大阪にも清水があるんです！）
- ・南宗寺（千利休や沢庵和尚と深い縁のあるお寺さん。枯山水、水琴窟があります。）
- ・住吉大社（全国約 2300 余りある住吉神社の総本社。“夕日信仰”という言葉を知りました。）

etc

○食べもんやさん

- ・焼肉の女神（おいしいお肉を安く！ダイエットのことは一旦忘れましょう。）
- ・加寿屋（その名の通り「かすうどん」が食べれます。）

etc

お客さんからは「大阪に行くときはちえちゃんを連れて行きたい!!」と絶賛の声が上がりました。話は盛り上がっていましたが、時間は 23 時を回っていたので、今回はこの辺でお開きとなりました。

●次回に向けて

企画のタイトルが「関西人だけで集まる会」といった伝わり方をするかも知れないので再考してみます。それから、関西の地図を用意して、関西出身の方には出身地に印を付けて行って頂こうと思います。そうすれば関西に行ったことのない方でも話が想像しやすいかも知れませんから。また、話に出て来た観光地に印を付けて、後日データで皆さんにお送りしてもいいかもしれない。

料理は引き続きお好み焼きか、それともたこ焼きいってみるか!? 手軽で安価、料理は外せません！具材募集!!

追伸一

ここまで目を通して頂きありがとうございます。

私は住む場所を移すことに大きな抵抗はありません。引っ越しする前の地が離れたくない程自分にとっていいところなんだったら、引っ越し先の地もまたいつか同じだけ自分にとっていいところになるだろう、と考えます。そのせいか、里心は余りありません。

でも、皆が皆そうじゃないから。

東京に出て来たばかりで、少しネガティブなものの見方になってしまっている方が、なるべく早く、地元と同じところ、また違うところを知ったとき、それをおもしろさと捉えられるようになってもらえればいいなと思っています。

その過程で、自分自身でも、自分や家族が生まれ育った場所がどんな地だったのかを知る良い機会にしようと思います。

また、こういった機会を地方毎に設けられたらいいなと夢想しています。

もしこの記事を読み、関心をお持ち頂けたなら、次回はぜひ遊びにいらして下さい。

お会い出来ることを楽しみにしています。



ぐるっこにつどったこえ 4がつごろ

(by 冠那菜奈)

こんにちは、みなさま。ぐるっこのいえ@秋葉原のぐるっ娘、冠です。
もう早いもんですね。今年の11月でぐるっこは丸2年になります。色んな事が
ありました。いろんな人が来てくれました。最近は滞在者が増え、私が知らないうちに
人がいることが増えました。家ってそういうのが面白いなって思います。
てな感じで、ぐるっこに訪れてくれた方のお言葉です～

ぐるっこのいえは、スバラシイ場所だ
と思います。お世話になりました。ま
た、ヨロシクお願いします。

8 がつ 31にち - 9 がつ 3 にち
大阪 より吉原啓太くん

9 がつ 7 にち
『秋葉原余白散歩と文化人類学カフェ
@アキハバラ』に参加してくれた田中里美さん

久々のシェアハウス。
懐かしい雰囲気でした。

初めておじゃましました！
うわさには聞いておりましたが、こん
なに時間の経つのを忘れる場所だっ
たとは…!!
お好み焼きもおいしかったし、大阪
の話もいっぱい聞けてほんと楽しか
ったですー
また今度おじゃまさせてくださいね。

9 がつ 22 にち
第一回『月イチ関西人の日』(仮)
に参加してくれた松木まどかさん

9・10 がつのぐるっこらいほうしゃ

ごうけい 70 めい いじょう

内田聖良 IT語辞典 ③

2012-07-26

CUI = Character User Interface
キーボードで全部操作できるやつ。
ターミナルとか。

GUIはGraphical User Interface。
アイコンとかでクリックなどが
つかえるやつ。



地に足ははじめから

10月頭まで無職をエンジョイしていた私ですが、あれよあれよというまに、クリエイティブサポートレッツに11月から一年間の就職が決まりました。

浜松に引っ越して、初めて東京を離れ、実家を離れ、一人暮らしです。

就労もほぼはじめて。

進路相談会とか公園で遊んだりとか、余白ネットワークも、続けていくつもりで、浜松行きはこれからもっと先にすすむための一歩だと考えます。

私は東京が好きだし、また東京に帰ってきてなにかやりたいと思います。

東京をいちど、ふるさとにしてみたい。

いまどこにいてなにをえらんでどうかわろうとするのか、予想を超える何かを期待しながら、たしかに進んでいく。小さな帆船のようだなーと少し心細くもなりながら。どんとこいキャリア。

小林橘花 L。たまきい

ついてない。

③

「浜松に

10月～の余白ネットワーク～〇〇をDIYする!～関連のイベント

今月は大阪支部のただえりのお知らせも掲載～～～! お問い合わせはakihabaranetwork@gmail.comまでどうぞ。

(^o^)



＼内田聖良からお知らせ／

西宮船坂ビエンナーレ 2012

凡人ユニット(内田聖良+清水都花)として西宮船坂ビエンナーレに参加しています。
蓬莱峡会場【座頭谷バス停下車】と、旧船坂小学校【船坂バス停下車】で展示しています。よろしくお願い致します。

2012年10月20日(土)～11月25日(日)(※月・火定休と11月23日はお休み)
OPEN 10:00～16:00
<http://funasaka-art.com/>

※凡人ユニット:「日常」や「特別ではない」、人としての表現の術を編み出すべく、フィジカルVJデバイスの制作など2012年よりVJ・美術の領域で活動。

＼内田壮哉からお知らせ／

(実は先月の27日に第1.5回月イチ関西人の日(月関)をひっそりと行いました)

11月下旬にも月イチ関西人の日を行う予定です。

＼ただえりからのお知らせ／

11月3、4日「バクトオーサカ×セルフ祭」
『RoToR Osaka 2012』@名村造船所跡地に参加しました!

○空庭畑部オープニングパーティー○

11月9日夜8時より、「谷町空庭」の4Fにて。
鍋の具材を1品持ち寄りです。遊びにきてください♪

○陸奥さんの「回し読み新聞」○

毎日夜8時～動物園前駅前のEARTHで開催中。
日曜日担当です(^^)

11月

小林橋花 浜松へ

余白ネットワークのプレゼンは
11月17日、1605-1700 セッション3

AAF フェスティバル報告会

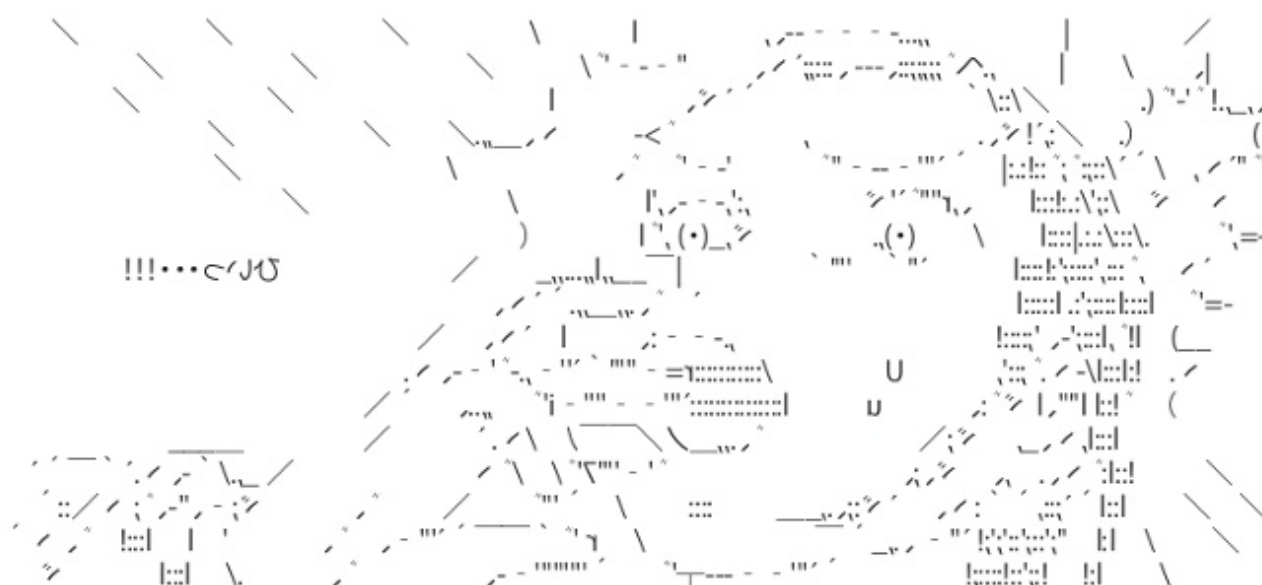
- ◎1日目 2012年11月17日(土)13:00-19:15(12:30開場)
交流会:19:30-21:00 参加費1000円
- ◎2日目 2012年11月18日(日)10:00-15:00(09:45開場)
会場:アサヒ・アートスクエア(東京都墨田区吾妻橋1-23-1)
入場:無料
主催:AAFネットワーク実行委員会
特別協賛:アサヒビール株式会社
助成:公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団

お問い合わせ先:

AAFネットワーク実行委員会 事務局
〒160-0017 東京都新宿区左門町14番地 TH左門町ビル201 P3 art and environment内
TEL: 03-3353-6866 FAX: 03-3353-6971



ホームページ <http://akihabaranetwork.seesaa.net/>
メール akihabaranetwork@gmail.com
電話050-3691-4089(よーはく)



Twitter: @YOHAKUnetwork

表紙イラスト：多田衣里
制作：余白工事人
(秋葉原ネットワーク実行委員会)



・特別協賛：アサヒビール株式会社
・助成：公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団